



↑国指定天然記念物 石戸蒲ザクラ



↑埼玉県自然学習センター
(北本自然観察公園)

Together

ともにつくる

みどりと

東京から電車で揺られて約1時間。窓の外に緑が見えてくると北本に到着です。東京に近い場所にありながらも、市内全域が埼玉県初の森林セラピー基地として認定されている、緑豊かなまち。そんな緑ある環境は、健康と癒しをもたらしてくれるだけでなく、さまざまな生きもののすみかや子どもたちの遊び場、集いの場としても活躍しています。緑と暮らしの距離が近いのもまちの特徴。公園や雑木林、農のある暮らしなどの風景が日常にあふれ、四季折々に緑がまちを彩ります。

水辺や緑が広がる荒川沿いは、「北本自然観察公園」や「高尾宮岡の景観地(緑のトラスト保全第8号地)」が整備され、さまざまな生きものが住み、守られています。そんな動植物や昆虫とふれあう体験やイベントが、市内で活発に行われています。こうした緑や生きもの、自然環境を市民・事業者・民間団体と行政が一体となって守りつないでいます。



↓多聞寺のムクロジ

↓ 緑とともに暮らし



Interview

みどりと北本びと

北本市内は公園や雑木林のプレーパーク「モリトコ」など、緑の中でのびのびと遊べる場所がたくさんですね。娘もそこに集まる子どもたちと思いっきり遊んでいます。人と自然とふれあえる緑の中で子どもの世界が広がっていくのを感じます。

石井 岳則さん
すみれちゃん



↓ サンアメニティ北本キャンプフィールド

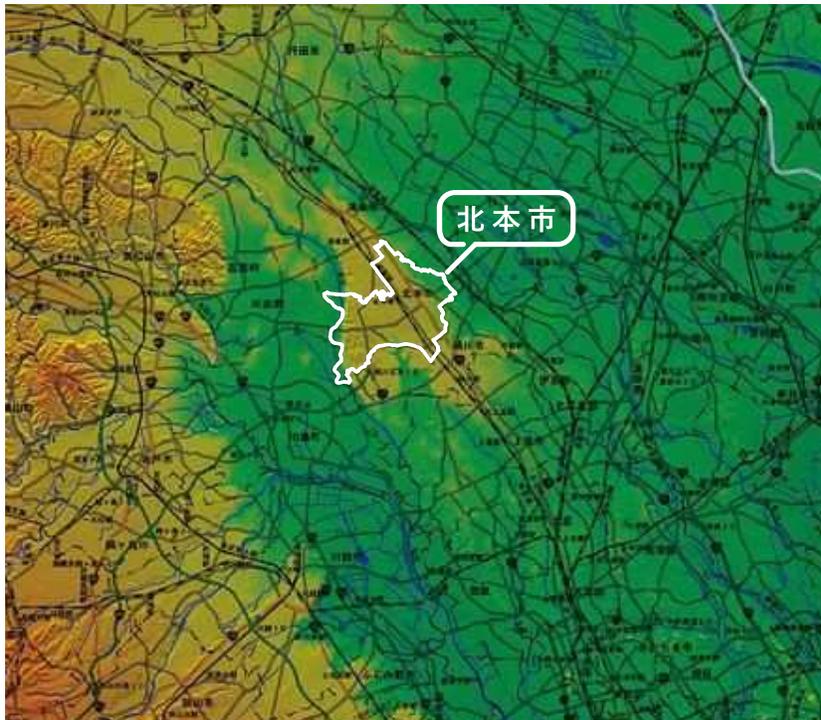




Together

ともにつくる

あんしんと



大宮台地の北端に位置している北本市。市のほぼ全域に大宮台地が広がっていて、同台地の中でも最高地点に位置しています。市内で1番標高の高い高尾付近の海拔は33メートルで、市内の西側を流れる荒川との標高差が大きく、市内のほぼ全域で洪水の危

険性は低くなっています。そのため、地震や水害時でも、自宅で安全に生活を継続できる場合は在宅避難を推奨しています。災害リスクの低い立地を活かしつつ、さらなる市民の安心安全のため、避難訓練や消防団の協力により、有事に備えています。

2021年

災害に強い街
ランキング

総合**3**位

(184市区中)

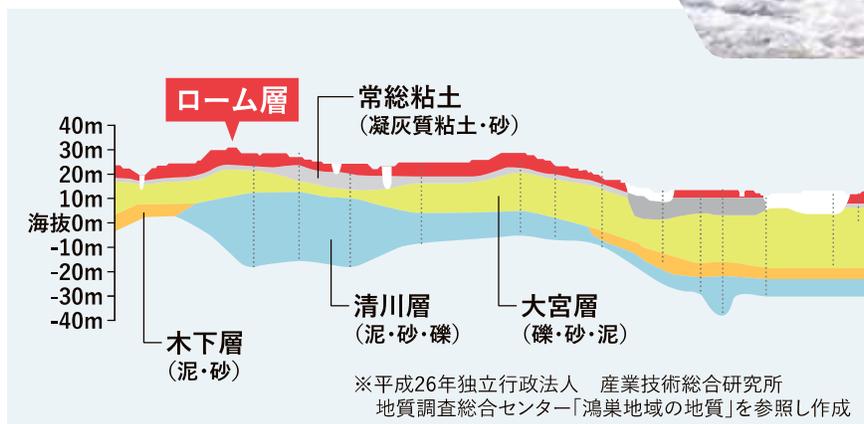
地震に強い街 9位

洪水に強い街 8位

ハード対策 10位

ソフト対策 9位

リクルート(株)発行の「首都圏184市区GNSで読み解く災害に強い街ランキング」で、北本市が一都三県(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)の町村を除く全184の自治体中、第3位となりました。



市内のほとんどがローム層と呼ばれる火山灰土で覆われており、揺れにくく、液状化のリスクが低いといわれている、比較的安定している地盤です。

Column

つながれてきた
北本市の里山暮らし

高尾の荒川に続く斜面には、埼玉県の平野で唯一のカタクリ自生地があります。昔から里山で暮らす人々に愛でられてきたカタクリ。春には高台の斜面を一面の薄紫に染めます。北本市の里山の春を象徴する花です。



縄文時代前期、現在の埼玉県にあたる場所には海が広がり、大宮台地は海に囲まれていました。当時の人々は、水が湧き出る北本市で里山文化を紡ぎながら豊かに暮らしていたようです。昔からある強固な地盤と高台が、私たちの暮らしを守り、里山をつないできたのです。



縄文時代前期の大宮台地周辺



Together

ともにつくる

おもいと

北本市は、海が広がっていた縄文時代においても、高台に位置し、湧き水にも恵まれていたため、多くの人々が暮らす地でした。市内には関東最大級の規模を誇る環状集落「デーノタメ遺跡」が残されており、当時の様子を私たちに教えてくれます。通常の遺跡ではほとんど残らない有機質の遺物が見つかっており、狩猟採集だけでなく植物を栽培し、食すという縄文時代の新たな暮らし方を発見する手がかりになりました。北本市の暮らしの原点ともいえる、歴史の息吹が残るこの遺跡は、歴史的・文化的財産でもあります。昔の人々の思いが、暮らしが、現代に伝わる遺跡。さまざまな取組によってその価値を守り、未来へつないでいます。



クルミ形土製品



勝坂式土器と
オニグルミ



勝坂式土器



ヒスイ製大珠



ヒメコガネの羽



漆塗土器

縄文に学ぶ循環・共生・平和

縄文時代には、自然と共生しながら住み続けるムラづくりが行われていました。それは現代の持続可能な開発目標であるSDGsの考え方に通じています。人々が同じ場所で暮らし続ける上で大切なことは、今も縄文時代も同じなのかもしれません。



かつて地域を盛り上げるため、北本で全国の祭りを再現しようという試みがあり、その一つが、ねぶた祭りでした。その思いが受け継がれ、北本まつり「宵まつり」は関東最大級のねぶた祭りへと成長しました。地域のコミュニティごとに作成された個性豊かなねぶた絵が秋の夜空を彩ります。子どもから大人まで、地域が一丸となって参加できるお祭りで、今もまちを代表するイベントとなっています。また、子どもの健やかな成長を願う初山参りも、一足早い夏祭りとしてにぎわいます。伝統行事は地域の人々の協力で運営・準備されており、こうした地域の宝が北本市で大切に育まれています。



↑ 初山参り



Interview

おもいと北本びと



北本まつり「宵まつり」部門
実行委員会
副実行委員長
加藤 祺さん

平成6年の第一回の祭りから関わり続けています。祭りが好きだからこそですね。ねぶたと地域伝統のお囃子が見所。その毎回の盛り上がりによりやりがいを感じます。みなさまにも、見るだけでなく、ねぶたを曳いたり、つくったり、一緒に楽しんで参加してもらいたいです。

↓ 北本まつり「宵まつり」





お多福来大根



さつまいも(紅はるか)



フルーツカブ



中山道ナス

めぐみと

緑に寄り添いながら、地域の風土と自然に育まれてきた北本の食と農。まちと農家さんが一体となって地域ブランドの創生に取り組んでいて、北本らしい逸品を「北本ブランド」として認定し全国に発信しています。また、市内農産物・加工品を「&green food」と位置付けPRするなど、北本の恵の魅力をさまざまな方法で伝えています。



北本トマトカレー



北本トマトの歴史

トマトがまだ珍しかった大正14(1925年)年、市内で発足した「農友会」が中心となってトマトの種子の輸出に挑戦したことが始まりです。昭和初期には県内有数のトマト産地として知られ、有名ホテルで北本産のトマトクリームが使われるほど定評がありました。市民のアイデアで生まれた北本トマトカレーは数々のグランプリを受賞。アイデアとチャレンジ精神が生んだ北本トマトは、市民の思いを受け継ぎ全国へその名を轟かせています。



いちご(あまりん、やよい姫)



プラム
(サマーエンジェル、サマービュート、貴陽)



梨(幸水、豊水、彩玉)



銀杏(久寿、藤九郎、金兵衛)

Interview

ほこりと北本びと



森と子育ての
つどい
「モリトコ」
橋本 利佳さん

子どもが自由に遊べる場所が欲しいと思っていたところ、同じ思いを持った方と出会い、雑木林に遊び場を作るモリトコを立ち上げました。今ではスタッフも遊びに来る方も増え、毎日にぎわっています。親子で楽しめる場として、未来につなげていきたいです。



Together

ともにつくる

ほこりと

市民によるさまざまな活動が活発な北本。住む人々自身が、まちの魅力を育てる活動は、市外からも注目を集めています。そんな人々の思いが形となった活動の輪がひろがり、私たちの誇りと明日の北本の活力となっています。

雑木林の中で子どもたちがのびのびと自由に遊べるプレーパークを開催するモリトコさんと、多様な暮らしの魅力をともに考える地元のまちづくりチーム、暮らしの編集室さんにお話をうかがいました。

Interview

ほこりと北本びと



市街地の活性化を始め、人々が集うマーケットや、団地での場作りなどさまざまな活動をして、北本を盛り上げています。暮らしに面白いことをプラスしたいという思いが行動の源。そんな自分たちの活動が、地域のにぎわいにつながるのには誇らしいですね。

合同会社
暮らしの編集室
江澤 勇介さん

